

「アレルギー」について学ぼう!

アレルギー専門医 高橋寿保先生に
聞きました



高橋先生(左から2番目)とクリニックスタッフのみなさん

長年にわたり清瀬市の(財)結核予防会榎十字病院のアレルギー科で、診療に携わってきた高橋寿保先生がこの10月、国分寺市東恋ヶ窪に「高橋内科クリニック」を開院。数少ないアレルギー・呼吸器専門医として、地域の心強い「かかりつけ医」として、その役目が大いに期待されています。

患者の一人で、50代後半に突然喘息を発症し、高橋先生の治療で救われた」と語るKさんは「患者の立場に立った親身な対応、心の通うコミュニケーション、疾病予防のサポートが適切」と先生を評します。クリニックを訪ね、先生にお会いしてその言葉を「なるほど」と実感。終始ニコニコと医学博士の肩書きからは程遠い、親しみやすさ。そして40歳という若さ溢れる、高橋先生に「アレルギー」について伺いました。そもそもアレルギーとは何ですか?

「アレルギー」という言葉の起源は、ギリシャ語の「奇妙な(aillos)と「反応(allos)」の合成語で、生体に外から何らかの作用を与えたときに、従来とは変わった奇妙な反応をおこす場合をさしたのが始まりです。これが現在では、「免疫反応が強くなりすぎて、生体に障害をおよぼすほどになったもの」という意味に理解されています。

人間には外から有害な刺激を受けようとする。それを排除したり無力化しようとする免疫反応があります。たとえば、一度麻疹(はしか)にかかると麻疹ウイルスに対する抗体ができ、もう一度麻疹ウイルスが入っても免疫反応によって発病しにくくなります。このような本来は人間にとって有利なはずの免疫反応が、どういっわけか人間にとって不利に反応する場合があります。これを「アレルギー反応」と呼んでいます。

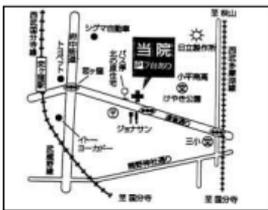
アレルギー反応によっておこる病気は?

実にたくさんあり、その代表格として気管支ぜんそく、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどがあげられます。アレルギーの原因となる物質(アレルゲン)が体内に侵入した際に、それを排除しようとする生体の「過剰」反応によるいなるな臓器におこることによるこれらの病気がおこります。アレルギー病は増加していますか?

ここ数十年増加の一途をたどっています。ぜんそくは成人で人口の3.4%、小児で4.7%と、60年頃の3~5倍に増えており、スギ花粉症にいたっては10%をかなり上回り東

京近郊では20%強という多さです。さらに、何らかのアレルギー病を持っている人の割合は、子供で30~40%、成人で22%と、大変な数に上り、しかも今後とも増加すると予想されており、これは世界的な傾向でもあります。

アレルギー病は家族内での発症が高く、素因が関わっているのは明らかですが、そのみではこの増加は説明できず、環境要因の関与が大きいと考えられています。住環境・生活環境の変化、アレルゲンの増加、食生活の変化、大気汚染、ストレスの増加など、文明の発達と共に変化してきた多くの要因が関わっていると考えられており、アレルギー病が「文明病」といわれるゆえんです。(次号から高橋先生のアレルギー相談室がスタートします。お楽しみ！)



高橋内科クリニック(内科・呼吸器科・アレルギー科)
住所: 東京都国分寺市東恋ヶ窪6-2-6 子サカ第1ビル1階
TEL: 042-322-7676 FAX: 042-322-7686
診療時間: AM9:00-12:30 PM3:00-6:30
休診日: 木曜午後・土曜午後・日曜祝日